

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年7月5日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.129】

JR総連はこの疑問に答えよ！革マル派浸透は真実だ！

前号、前々号で2000年に発生した「九州労大量脱退事件」「坂入氏拉致監禁事件」の際、JR総連が自ら革マル派と断じて糾弾した小西富士雄氏が、JR総連の特別執行委員になっている驚くべき事実を検証した。この問題をさらに詳しくみていきたい。まず、本情報「No.31」「No.52」で掲載した、JR総連の当時の小田委員長が「坂入事件」で警察に提出した告発状の一部を再度紹介する。

告発状(告発人 小田裕司[注:JR総連委員長(当時)]、被告発人 氏名不詳) 告発事実
2. 坂入充さんは、...(後略)
(1) 11月3日、午前10時35分頃、「浅野です。旦那さんと討論させてもらおうと思って、いずれ本人からも連絡してもらいます」との電話が坂入さんの自宅へありました。浅野という人は革マル派の活動家のようです。
3. 坂入充さんが革マル派に拉致、監禁され、自己批判を強要されている原因は、
(2) -(前略)-なお、集団脱退に関連して10月9日午後2時半頃、JR九州労組合事務所に革マル派と思われる小西某、神保某、浅野某という3人が乱入し、暴行、窃盗を重ねました。このときの浅野某が、前述の電話の浅野と同一人物のようです。
(3) 11月11日、午前10時45分頃、JR総連加盟のJR九州労の組合書記、小西光子(11月10日に解雇通告)がJR九州労組合事務所に来て、このたびのJR九州労の大量脱退に関し、「坂入さん本人が、『大量脱退劇は、坂入さん、田岡さん、船戸さん、北さんで意思し、決めたことであつた』と言っている」と述べています。11月11日現在、「坂入さん本人」から話しを聞けるのは、拉致した者かその仲間以外にはいないはずです。

坂入事件の実行犯は今やJR総連役員や関係団体研究員を務める！

宗形明氏「もう一つの『未完の国鉄改革』」(高木書房、p.66~67)によれば、JR総連が革マル派とする「小西某」は鳥栖機関区出身の元動労の革マル派九州政治局員の小西富士雄氏、「神保某」は動労中央本部役員の地位に長期間あつた新鶴見機関区出身の神保順之氏、坂入氏拉致の実行犯とみている「浅野某」とは、田町電車区出身で「真国労」の初代副委員長であつた浅野孝氏のこと。この3人は2000年12月3日に革マル派の総会「革共同政治集会」に参加し特別報告や決意表明を行った活動家ともみられている。

JR総連が革マル派とするこの3人は、揃って、東労組元会長の松崎明氏が会長を務める「国際労働総研」の主任研究員であり、機関誌「われらのインター」に多数の寄稿をしている。浅野氏は「われらのインター」のNo.17、25、30に、神保氏はNo.24、29に、小西氏はNo.10、22、23、24、30、31に、それぞれが執筆した記事が掲載されている。

「坂入事件」を思い返して欲しい。JR総連が革マル派から坂入氏を救出せよと組合員を引き回した一方、坂入氏が革マル派機関紙「解放」で自己批判しJR総連を糾弾するなど、両者が入り乱れての不可解な大騒動があつた。ところが、JR総連自らが坂入氏を拉致・監禁した実行犯と認める革マル派活動家が、今や、JR総連の特別執行委員や関係団体の主任研究員を務めているというのはどういうことか。3名を事情聴取し事件を解明するのが筋だ。JR総連から「坂入問題」の真相について未だに何の説明もない。民主党政権が閣議決定したJR総連・東労組への革マル派の浸透は、疑惑ではなく真実なのだ！